



プレスリリース  
2003年11月13日

## リバティ・アライアンス、「フェーズ2」の最終仕様と 連携アイデンティティのためのプライバシー・ガイドラインを設定

### フェーズ3に向けてサービス・グループも結成

オープンで相互接続可能な連携アイデンティティ標準規格作りのために結成されたリバティ・アライアンス(Liberty Alliance)は米国時間の11月12日(日本時間11月13日)、既存のLiberty 連携フレームワークの完成度を高め、Liberty Identity Web Services フレームワークの基盤となる「フェーズ2」仕様を承認し、公開すると発表しました。フェーズ2仕様はリバティ・アライアンスのWebサイトよりダウンロード可能で、リバティ対応の製品やサービスの開発のために利用することができます。

また、リバティ・アライアンスは同時に次の発表も行いました。第一にリバティのメンバーによるフェーズ2仕様の早期の実装計画です。第二にリバティの実装者にプライバシーに適合した方法で仕様の採用を支援するためのベスト・プラクティスである「オーナーズ・マニュアル」を用意したことです。そして第三にLiberty Identity Web Services のフレームワークを採用したサービス・インタフェース仕様を開発するための新しいグループである「サービス・グループ」を設置したことです。

リバティ・アライアンスのプレジデントでアメリカン・エクスプレス社の副社長であるマイケル・バレット(Michael Barret)氏は「リバティ・アライアンスは標準化組織の中でもユニークな存在です。多くのフォーラムがWebサービスを構築するためのテクノロジー・プラットフォームを開発していますが、標準仕様を作成するだけでなく、それらの標準仕様が産業界横断的にはもちろん、世界的にも利用できるようなビジネスやポリシーのベスト・プラクティスを提供しているのは、リバティ・アライアンスだけです」と述べています。

### 導入の容易性

新しいLiberty Web Services フレームワークは、新たなビジネス機会を創出し、内部ITコストを削減するだけでなく、より安全かつ機密性の高いWebサービスを可能にするアイデンティティベースのWebサービスのためのオープンで標準となる方法を提供します。リバティ仕様はSAML、SOAP、XML、WS-Securityといった既存のオープンな業界標準をベースとして作成されているため、どのような環境でも導入およびサポートが可能であり独自仕様でないため、企業の投資を最大限に生かすことができます。

関連する開発動向として、5つの企業が既存または新規の製品やサービスにおいて、フェーズ2のリバティ仕様をサポートする計画を発表しました。

- **Phaos** – Phaos Liberty Identity Provider (IDP)と Phaos Liberty Service Provider (SP)、および J2EE Server コンポーネント・パッケージは Phase 2 Liberty Federation Framework (ID-FF)をサポートし、アイデンティティとアカウントのリンクを可能にすると同時にシンプルなシングルサインオンとセッション管理を可能にします。Phaos は Liberty Identity Web Services Framework (ID-WSF)を 2004 年第 2 四半期にリリースされる製品に導入することを計画しています。
- **Ping Identity** – Ping Identity 社は 2004 年初頭にオープンソースの SourceID Federation Platform のフェーズ 2 Liberty 対応バージョンをリリースする計画です。SourceID は国際レベルのツール、アプリケーション、および共通化されたアイデンティティ管理のための基盤を提供します。現在、SourceID は世界中の 1,000 社以上によって 2,500 件ものダウンロードが行われています。
- **Sun Microsystems** – Sun Microsystems 社はリバティのフェーズ 2 仕様をサポートするために同社の Java System Identity Server を通じて Sun Java Enterprise System の既存の Liberty 機能を拡張する計画を持っています。
- **Trustgenix** – IdentityBridge™は、リバティのフェーズ 2 仕様をサポートするとともに、既存のアイデンティティ管理システムを補完するシングルサインオン、広範な企業でのプロビジョニングや特権管理を含む連携アイデンティティ管理を提供します。
- **Vodafone** – Vodafone 社は、リバティ仕様のフェーズ 1 およびフェーズ 2 を同社のイントラネットと Vodafone を経由する商用サービス・プラットフォームで展開する予定です。Vodafone は、2004 年から 2005 年にリバティ仕様の導入を予定しています。

### 機密性とセキュリティ

Liberty 仕様は個々の実装者が、自分の所属する地域、産業界、企業ポリシーに最もよく適合するプライバシー・ポリシーやデータ管理を選択できるように作られています。実装者が安全で機密性に優れ、地域の法律に適合したアイデンティティベースの Web サービスを開発するのを支援するために、アライアンスは同時に“ Privacy and Security Best Practices”ガイドの最終版をリリースしました。

リバティ・アライアンスの Public Policy Expert Group の議長で、Sun Microsystems 社のグローバル・パブリックポリシー担当副社長を務めるパイパー・コール(Piper Cole)氏は「機密性(プライバシー)とセキュリティはアイデンティティ問題における基本的な要素であり、リバティは常にこれを念頭に開発を進めてきました。機密性は事業に不可欠であり、リバティの使命は高度なプライバシーを保証するテクノロジー・ツールとビジネスガイダンスを提供することです」と語っています。

リバティ・アライアンスの“ Privacy and Security Best Practices ”ガイドは、様々な地域や業種におけるプライバシー関連の法律、公平かつ実践的な情報、インターネットに内在する一般的なネットワーク脆弱性と闘うための具体的な提案、機密性とセキュリティに関するアライアンスの提言などを提供しています。この文書のダウンロードは Web サイト [http://www.projectliberty.org/specs/final\\_privacy\\_security\\_best\\_practices.pdf](http://www.projectliberty.org/specs/final_privacy_security_best_practices.pdf) から可能です。

### フェーズ3以降の展開

リバティ・アライアンスのテクノロジー、パブリック・ポリシー、ビジネスおよびマーケティングの各エキスパート・グループは過去2年間にわたり共同で、連携アイデンティティのための完全なソリューションを開発してきました。リバティ・アライアンスは最近フェーズ1とフェーズ2の仕様の利用促進を図るために2つのエキスパート・グループとして Cofromance(適合性)Expert Groupと Services(サービス)Groupの2つを追加しました。

今年の10月にリバティ・アライアンスは、Liberty Allianceの連携アイデンティティ標準仕様の実装に成功している製品とサービスを検証するプログラムを発表しています。このプログラムはリバティの新しい Conformance Expert Groupの管理の下で、ベンダー、インテグレーターおよび実装者がリバティ対応ソリューション間の相互接続性を保証することを支援します。

リバティ・アライアンスは今回、新しい Liberty Identity Web Services フレームワークを利用する多くの相互接続可能なサービス仕様を開発し、特定の産業、アプリケーション、およびビジネスモデルのニーズに応えるために新しいグループ “Services Group”の設立を発表しました。

すべてのアライアンス・メンバーは、リバティ仕様のフェーズ3となる新しい ID-SIS仕様 (Identity Service Interface Specifications)の開発に参加することができます。今後もリバティ・アライアンスのメンバーシップの後押しによって SISグループが追加設置される見通しです。

リリースされた最初の2つの利用可能な SIS (Service Interface Specifications)は、基礎的な登録情報のための標準的なテンプレートを定義し、これによって組織がお互いに共通の言語で会話し、相互接続可能なサービスを提供する ID-Personal Profileを含んでいます。2つ目は同様の情報を定義しますが企業内の従業員をターゲットとしている an ID-Employee Profileです。

フェーズ3では、アライアンスは以下のような SISを開発する計画です。

- **コンタクトブックサービス・インタフェース(Contact Book Service Interface):** ユーザーがコンタクトブック・プロバイダーの有無とは無関係に個人や仕事上のコンタクト先を管理したり共有したりするための共通の方法であり、これによってサービスプロバイダーはユーザーのリクエストに応じて請求書や出荷先アドレスのような情報にアクセスしたり自動的に更新したりすることが可能になります。
- **ジオロケーションサービス・インタフェース(Geo-location Service Interface):** 個人の場所を自動的に特定したり、ユーザーのリクエストに応じて天気予報、ニュース、旅行、為替レートなどの情報を指定された場所に送るといった相互接続可能なサービスです。
- **プレゼンスサービス・インタフェース(Presence Service Interface):** ある個人がオンラインかオフラインか、電話に出られるか、会議中かといったプレゼンス(存在)情報をユーザーが共有できるようにして、すべてのプロバイダーが通信の可用性を高めることができるようなサービスです。

これらの新しい仕様は順次リリースされる予定です。アライアンス会員資格の取得方法やサービス・インタフェース仕様(SIS)開発への参加申込みの方法は [info@projectliberty.org](mailto:info@projectliberty.org) へお問い合わせ下さい。

#### リバティ・アライアンス・プロジェクトについて

リバティ・アライアンス・プロジェクト([www.projectliberty.org](http://www.projectliberty.org)) は世界の 150 社を超える企業から成る非営利・非政府の組織です。コンソーシアムの目的は、すべての現在および新規のネットワークデバイスをサポートする連携ネットワーク・アイデンティティのオープン・スタンダードを開発することです。連携アイデンティティは、企業、政府機関、従業員、および一般消費者に、今日のデジタル社会におけるアイデンティティ情報をコントロールするより便利で安全な方法を提供するとともに、Web ベースのサービスは言うまでもなく、電子商取引、個人データサービスの利用を促進する重要な要素です。メンバーシップはすべての営利団体および非営利団体に開かれています。

\*\*\*\*\*

このプレスリリースに関するお問い合わせは下記へ

株式会社 井之上パブリックリレーションズ

リバティ・アライアンス 広報担当 鈴木 / 本田 / 永井

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-34 新宿御苑前アネックスビル6F

TEL:03-5269-2301 / FAX:03-5269-2305 E-mail : [liberty@inoue-pr.com](mailto:liberty@inoue-pr.com)